

C-7-1) Pituitary stalk に発生した Rathke's Cleft cyst の1例

真鍋 宏 (弘前大学脳神経外科)  
 石井 正三 (石井脳神経外科 眼科病院脳神経外科)  
 尾田 宣仁 (石井脳神経外科 眼科病院神経内科)

Rathke's creft cyst はトルコ鞍内に認められる上皮性の嚢腫で Rathke's pouch の遺残より発生するといわれている。今回我々は Pituitary stalk に発生し、組織学的に Rathke's creft cyst と考えられた稀な1例を経験したので報告する。症例：71才女性。軽度の頭部外傷後の頭痛を主訴として来院。CT にて suprasellar tumor を疑われて入院。神経学的異常所見無し。視野、視力は正常。Hormonal examination は正常。頭蓋単純写で sellar の変化は無し。CT で suprasellar に一部僅かに増強効果を認める isodensity な mass を認めた。MRI では chiasma 直下に mass を認め、pituitary stalk, 下垂体後葉と連続しているようであった。Gd enhancement (-)。axgiograpny では tumor stain, feeding artery とともに無し。suprasellar tumor の診断の基に摘出術を試みた。肉眼的に tumor は pituitary stalk の腫大として認められ、その location から total removal は不可能であったため open biopsy にとどめた。組織学的には cilia を有する円柱上皮に覆われ、その下層には glial cell が認められ、Rathke's creft cyst と考えられた。術後経過は良好で独歩退院した。

C-7-2) Intrasellar cyst (Rathke's cleft cyst) の1例

渡辺 徹・寺林 征  
 妻沼 到・小股 整 (富山県立中央病院 脳神経外科)  
 杉山 嘉昭 (新潟大学脳研究所 実験神経病理学部門)  
 生田 房弘

症例は63歳女性。既往歴、家族歴に特記事項なし。平成3年1月めまい症状にて CT を施行、鞍内占拠性病変指摘され来院した。身長 150 cm, 体重 45 kg. 理学的、神経学的所見に異常を認めず。視野欠損なし。頭蓋単純写で鞍底は軽度右へ傾斜していた。CT 上は鞍内および鞍上部にかけて球形のほぼ均一な低吸収域 (Hounsfield unit 9.2) を認め、前壁が一部リング状に増強された。MRI では内容は T<sub>1</sub>, T<sub>2</sub> 強調画像とも髄液

よりやや高信号に描出された。脳血管撮影では A1 水平部の軽度挙上所見を認めた。一般検査および内分泌学的所見上異常を認めなかった。経蝶形骨洞手術を施行した。右鞍底部骨組織は一部破壊あり。嚢胞は髄液腔とは交通なく、壁は黄色硬の組織であり内容液は無色透明であった。嚢胞壁組織の病理標本より Rathke's cleft cyst と診断した。同疾患は比較的稀であり、画像診断上も他疾患との鑑別が困難なことが多い。文献的考察を交えて報告する。

C-7-3) 脳梁欠損を合併した Ependymal Cyst の2例

末武 敬司・奥山 徹 (市立函館病院 脳神経外科)  
 丹羽 潤・平井 宏樹

Ependymal cyst は中枢神経系に発生する嚢胞性病変で、脳梁欠損を合併するという報告が散見される。今回脳梁欠損を伴い側脳室内と半球間裂に発生した ependymal cyst の稀な2症例を経験したのでその画像診断上での特徴をあわせて報告する。症例1は5歳の男児で間代性痙攣を主訴に入院、神経学的に左手指に巧緻障害を認めた。画像診断で右側脳室に2房性の嚢胞性病変と脳梁の部分欠損を認めた。側脳室内嚢胞の診断で嚢胞開放術を行った。組織学的に gliopendymal cyst であった。症例2は2歳の女児で CT で異常を指摘され精査目的に入院、神経学的に異常なく、画像診断で半球間裂に嚢胞性病変と脳梁の完全欠損を認めた。半球間裂嚢胞の診断にて嚢胞開放術を行った。組織学的には ependymal cyst であった。

C-7-4) asymptomatic pineal cyst

山田 潔忠・中井 昂 (山形大学脳神経外科)  
 川上 千之 (財三友堂病院 脳神経外科)

asymptomatic pineal cyst 8例の神経放射線学的所見を分析し、symptomatic に変化したり腫瘍性増大を示す例がないか follow-up した。【症例】頭痛、めまいなどで受診し、CT, MRI にて偶然松果体部に cyst を認めた19~65 (平均47) 歳の全例女性。本病変と関係ある神経症状を示した例はなし。【方法】神経放射線学的所見の分析、血中腫瘍マーカーの検索、臨床的 follow-up を行った。【結果】① 頭蓋単純写：松果体部石灰化あり 4/7。② CT：施行6例全例で松果体部に一部石灰化を